

津山郷土博物館だより「つはく」

津博

TSUJHAKU

2013.1 No.75

トピックス

特別展を開催しました
特別展関連資料紹介
美作国大茶華会に会場提供
津山ロータリー 子供用パンフを寄贈

博物館のしごと

資料の補修 杉井 万里子

研究ノート

帰農を望んだ確堂 小島 徹

お知らせ

江戸一目図の縮刷版を販売開始



津山郷土博物館

Tsuyama City Museum

(表紙写真 西今町 翁橋西詰)

特別展「江戸時代の地図づくり」を開催しました

10月6日～11月18日



特別展図録 1部1,500円で販売中!

今回の特別展は「国絵図作成事業と津山藩」をサブテーマとした。当館で近年収集した資料の中に、正保・元禄・天保度の国絵図作成・改訂時に津山藩で作られた大きな美作国絵図や、準備段階で作られた多くの村絵図を確認できたため、それらをまとめて展示公開したい、と考えたのが企画の始まりでした。

本展の目玉は、初公開の正保・元禄美作国絵図です。元禄図は実物を展示し、正保図は実寸大パネルを展示しました。そして、国絵図と現代の地図とを比較対照できるように、縮尺の近い二万五千分の一地形図の旧美作国域をつなぎ合わせたパネルも用意しました。また、各村絵図には現代の航空写真のパネルを添えて、比較しやすいように工夫しました。

展示スペースの制約から、出展資料は一部に絞り込みましたが、図録には関連資料を全て掲載し、会期終了後も資料集として活用できるものを目指しました。大判の国絵図については、できる限り大きく表示し、かつ縦じ目に掛からない

よう、折り込みページに図版を掲載しました。

来館者の反応ですが、国絵図については、その大きさもさることながら、国の姿がかなり正確に描かれていることに、驚く方が多く見られました。また、ご自宅周辺の風景の移り変わりを村絵図から興味深そうに読み取っている方もおられました。本展の協力者ならびに会期中の来館者の皆さまに、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

なお、正保美作国絵図の実寸大パネルは、会期終了後も場所を変えて展示しています(左の写真)。その大きさを体感しながら、じっくりとながめてみてください。



【特別展関連資料紹介】寛永15年日本図縮図（当館蔵） タテ120cm×ヨコ216cm



部分図：米沢（中央やや上寄り）とその周辺

右方向が北、黄色が陸奥国、桃色が出羽国。米沢は本来、出羽国ですが、寛永年間には米沢藩の所領が陸奥国にも広く存在し、元となる国絵図の作成時に便宜上、陸奥国に含められたため、この日本図を集成する際にも、陸奥国として描かれることとなりました。

北海道（蝦夷地）を除く日本本土全域を描いたこの絵図は、島原の乱直後の寛永十五年（一六三八）に江戸幕府が作成した日本図の写しで、津山藩松平家文書（岡山県指定重文）の中に含まれていたものです（整理番号M1・7）。

岡山大学附属図書館が所蔵する池田家文庫の日本大絵図（T10・4）

も同系統の日本図で、当館蔵の本図の約二倍の大きさに描かれています。

本図が寛永十五年日本図の写しであると確認されたのは、国絵図研究の大家である川村博忠先生です。以前の閲覧調査で確認され、昨秋の特別展観覧にお見えの際、ご教示いただきました。残念ながら特別展では展示できませんでした。が、国絵図作成事業の関連資料として、ここに紹介します。機会があれば、展示公開もできればと考えています。

（小島 徹）

美作国大茶華会に会場提供

11月24日
・25日

昨年11月、津山市内の各所を会場として、美作国大茶華会が行われました。当館も会場を提供し、玄関車寄せで生け花、玄関ホールで森家・松平家の茶道に関するパネル展示が行われました。

生け花は嵯峨御流津山司所の方々が前日の朝から準備されました。大きな竹を組み、その中にあざやかな花が次々に足されていく様子はとてもきれいで、当館職員は準備段階から楽しんでいただけました。

当日は生け花目当ての来館者も多く、茶道のパネルをじっくりご覧になる方もいました。



津山ロータリークラブ 子供用パンフレットを寄贈

12月5日

津山ロータリークラブから、おもに小学校高学年を対象とするパンフレットが当館に寄贈されました。

博物館のキャラクターたちと一緒に楽しく歴史を学べるパンフレットで、内容や大まかなレイアウトは当館で考えました。大きく広げるとB2サイズになり、常設展示している津山城下町絵図の上に津山景観図屏風の部分拡大や現地の写真などを散りばめて、城下町を通じて近世社会について学習できる仕上がりとなっています。

このパンフレットは、小学校への出前授業で利用するほか、遠足や社会見学など学校単位で当館に来た小学生にも配布し、有効に活用します。

津山ロータリークラブの皆さま、どうもありがとうございました。



東小学校での出前授業に活用しました。

広げるたびに、いろいろなお宝を発見しながら、学習が深まります。



博物館のしごと「資料の補修」

博物館の仕事には、展示公開、資料収集や調査研究などたくさんありますが、その一つに資料の補修があります。虫食いなどで傷んでしまい利用できない資料でも、きちんと補修すれば展示・公開も可能になり、良好な状態で永久的に保存できます。

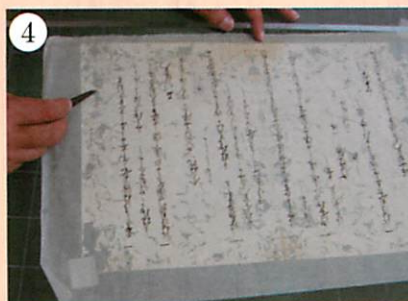
当館では、津山藩松平家文書のうち日記類を業者委託によって継続的に裏打補修してきました。「国元日記」の補修は完了し、現在は「江戸日記」の補修を実施中です。

裏打とは、書物を解体して紙一枚一枚の裏に別の紙を糊づけする補修法の一つで、熟練の技が必要です。委託業者が行う裏打補修の手順を、おおまかにご紹介します。

- ①まず、作業前の状況確認です。今年度は「江戸日記」の中でも虫食いによる傷みが激しい13冊の補修を行いました。ページをめくるだけで破れてしまいそうです。
 - ②次は解体作業です。綴じをばらして紙をはがし、一枚ずつ開きます。
 - ③本紙を霧吹きなどで湿らせ、しわや折れをのばします。
- その後、裏打用の和紙に糊をつけ、本紙の裏に貼っていきます。



- ④乾燥させ、裏打ち和紙の余分な部分を断ちます。
- ⑤表紙を取り付け、綴じていきます。原本1冊が分厚いものは分冊し、分冊した日記は新たに表紙を付けます。
- ⑥分冊した日記の散逸や型崩れを防ぐため、帙^{ちつ}と呼ばれる収納箱を作成します。



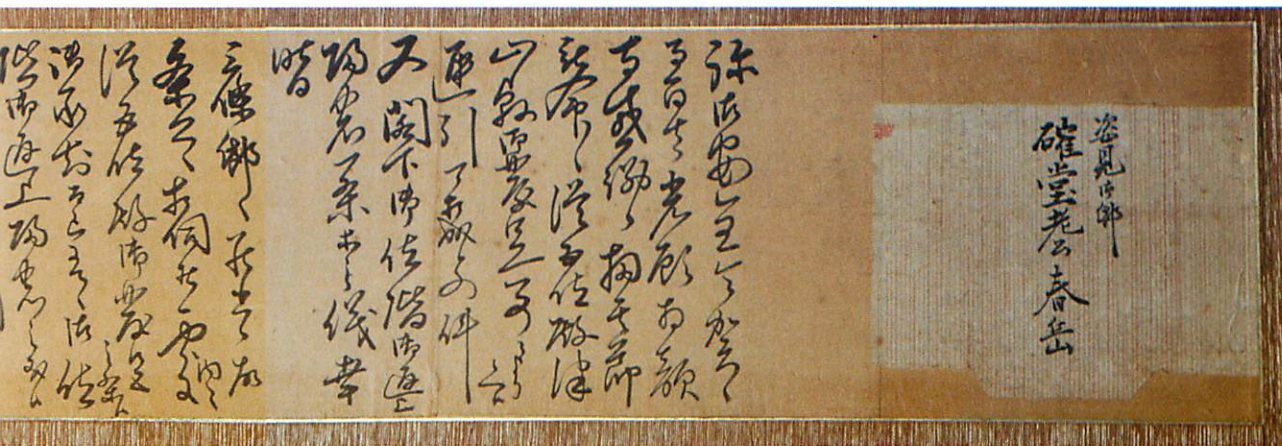
傷んだ部分に書かれていた情報は、いったん失われてしまうと取り戻すことができません。

裏打補修を行うことで損傷の進行を止めれば、情報の消失を最小限に食い止めることができるのです。(杉井万里子)

帰農を望んだ確堂

一通の書簡から読み解く

小島 徹



松平確堂宛 松平春嶽書簡 (個人蔵)

【読み下し】

(封筒上書)

姿見御邸

確堂老公

春岳

弥御安全令賀候

過日者光顧拜顔

奉感謝候扱其節

被命候從五位殿津

山縣御発足事より候へハ

遅引可相成との件

又閣下御位階御返上

帰農一条等之儀幸

昨日

三條邸へ罷出候故内々

条公へ相伺候処

從五位殿御発足之条ハ

御承知而已にて候御位

階御返上帰農之義ハ

追々華族より伺之者も

有之候故当時専ら

左院出書にて取調

候出書何れ其中

御規則も定り候へハ

被仰出可相成候間

夫迄之所ハ位階返上

或ハ帰農願等ハ暫

時見合セ候様との御沙汰三候

故此段内々申上候

右之御合にて先

当分御見合セ有之候方

可然奉存候仍此段申

上候也

杪晚十八日

確堂老公

春嶽

春嶽からの書簡

昨年の夏から秋に、倉敷市児島の旧野崎家住宅で、旧福井藩主の松平春嶽が戊辰戦争の戦況を岩倉具視に伝えた書簡や、春嶽が山内容堂に送った密書などが次々に見つかり話題になりましたが、津山市内の個人宅にも、春嶽の書簡が保存されているのを、所蔵者からのご連絡により確認しました。その書簡は旧津山藩主の松平確堂に送られたもので、額装して保存されています(上の写真参照)。この書簡の中に、確堂について気になる記述が見られましたので、ここにご紹介します。

時期と人物の特定

まず、この書簡の読み下しと口語訳を、それぞれ上に示しました。日付の「杪晚」ですが、「杪」は「秋」の本字なので、「秋晚」=「晩秋(旧暦九月の異称)」ということ、つまり九月十八日付です。年代については、次ページの年表をご覧ください。書簡に出てくる語句から絞り込むと、

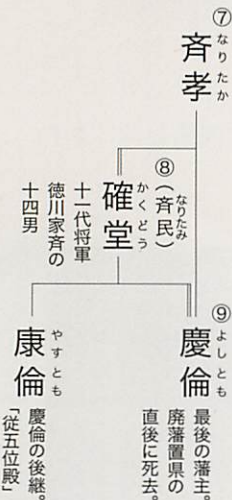
明治四年九月と特定できます。また、本文四行目の「從五位殿」ですが、続けて「津山縣御発足」とあるので、当時津山にいた松平家の男性ということになり、家督相続したばかりの康倫に限定されます。ただ、当時の康倫は從四位上ですから、どうも春嶽が勘違いしたのでしようか。廃藩置県の際、それまで各藩の知事であった旧藩主たちは、東京への移住を命じられますが、津山藩の場合は急死した慶倫の後継である康倫に命じられたのです。

書簡の趣旨

こうして書簡が書かれた当時の時代背景をつかんだうえで、改めて本文に目を通すと、三回も繰り返し出てくる「位階返上・帰農」がこの書簡の本題で、どうも確堂が位階を返上して帰農したいと考えていたらしいことが読み取れます。そして、この書簡によると、確堂以外にも当時の華族の中に同様の希望を持つ者がいた様子です。

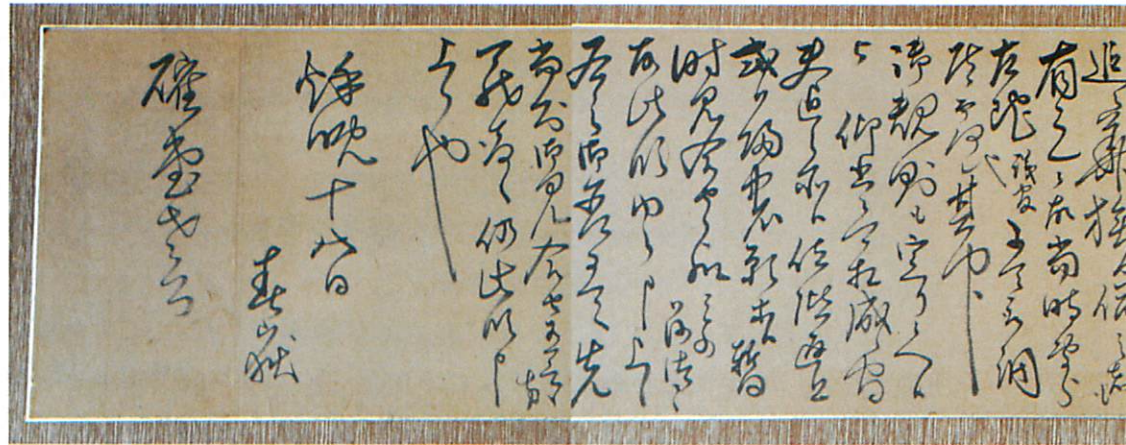
津山藩主 松平家略系図

⑦～⑨の数字は、津山藩主としての代数。





松平 確堂 (1814~91)
(写真は個人蔵)



松平 春嶽 (1828~90)
(国立国会図書館HPより転載)

【本文の口語訳】

ますますお健やかで、めでたいことです。先日はお出でくださいまして、ありがとうございます。

さて、先ごろ政府から命じられた康倫殿の津山県出発が、場合によっては遅れるかもしれないことや、貴殿の位階返上・帰農願の件は、都合よく昨日三条実美公の屋敷へ出かけましたので、非公式にお聞きしたところ、康倫殿の出発遅延の件は、「わかった」とだけのご返事でした。位階返上・帰農願の件は「次々と華族から伺いを立てる者があるので、左院で現在調査中であり、いずれそのうち規則も決まれば公布されるだろうから、それまでは位階の返上とか帰農の出願などは、しばらく控えるように」とのご指示でしたので、内密にお知らせします。

このような状況ですので、当分は出願を控えて様子を見られるのがよろしいかと思えます。このことをお知らせ申し上げます。



書簡作成時期：明治4年9月

まとめ

いずれにせよ、廃藩置県前後の当時、確堂が位階を捨てて帰農しようとして希望し、行動に移そうとしていたという事実は、注目に値します。その真意は、どこにあったのでしょうか。関連資料の発見が切望されるところです。

「不平華族」との関係

維新後の変革によって土地の支配権を奪われた旧大名たちの中には、新政府に対して不満や反感をいだく者が少なからずいました。そのようなグループを大久保利謙氏は「不平華族」と呼んでいます。不平華族の中に、憤慨のあまり帰農して一平民になろうという風潮があったのかもしれませんが。こうした不平華族の動向と確堂の内願との関係も気になるところです。

確堂の位記返上願

大正年間に編纂された確堂の年譜「松平文定公御年譜稿本」には、明治四年五月十三日付で位記返上の嘆願書を太政官の弁官に提出したものの認められなかったと記されています。嘆願の大意は「維新の変革が進む中で、諸侯は爵位を保持しているが、年老いて多病の自分は天皇の聖恩に報いるのが難しいので、位記を奉還したい」ということです。この願書には「帰農」の語は一切見られず、また嘆願が却下された時期の記載がないので、書簡に出てくる内願とどのように関係するか、よくわかりません。

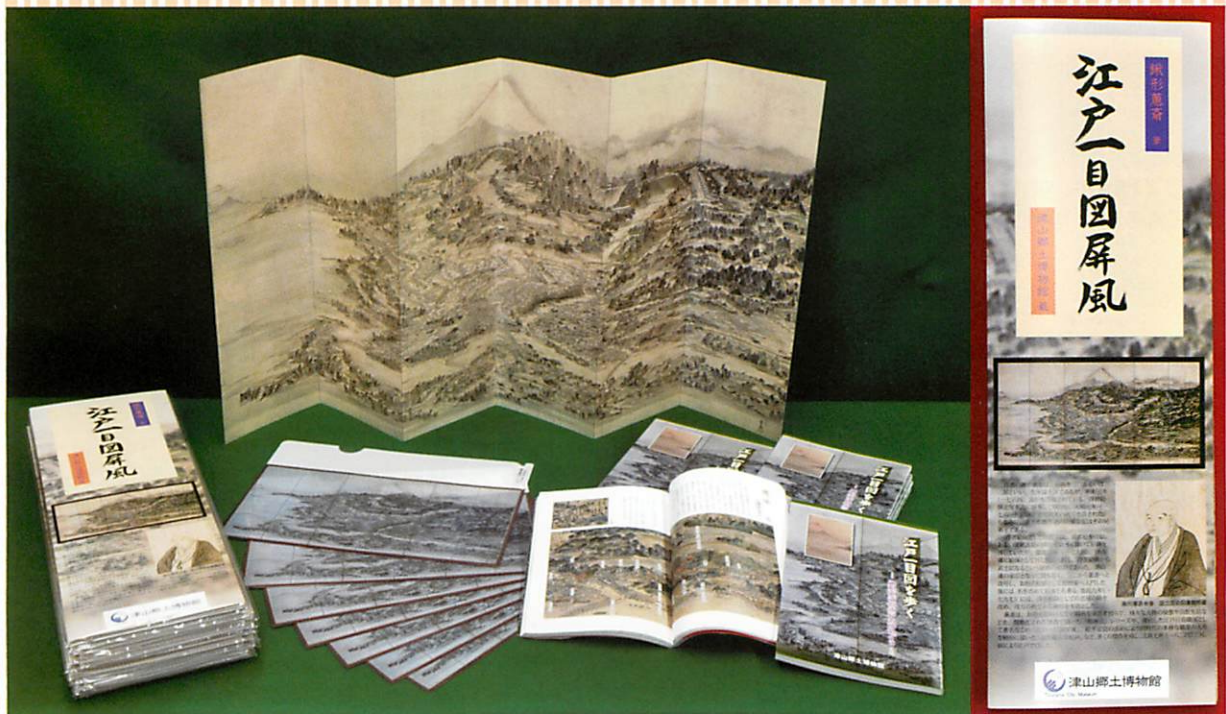
江戸一目図屏風の縮刷版の販売を開始しました

前号でお知らせしておりました江戸一目図屏風の一枚刷りの縮刷版の販売を開始しました。大きさは、たて45cm、横90cmとなっています。表面には高精細の江戸一目図屏風を印刷し、裏面には江戸一目図屏風の解説を印刷しています。

すでに販売しています江戸一目図屏風の解説本『江戸一目図を歩く―鋏形蕙斎の江戸名所めぐり―』を手にとこの縮刷版をみていただくと江戸一目図屏風の世界をより一層お楽しみいただけるのではないかと思います。

江戸一目図屏風の縮刷版は1枚500円、江戸一目図屏風の解説本『江戸一目図を歩く―鋏形蕙斎の江戸名所めぐり―』は1冊1,000円で販売いたしております。

その他にも江戸一目図屏風のクリアファイル（1部200円）もございますので、ぜひこの機会にお買い求めください。



大 博物館だより「つはく」
No.75 平成25年1月1日

津博
TSUHAKU

〔編集・発行〕 津山郷土博物館
〒708-0022 岡山県津山市山下92
Tel (0868) 22-4567 Fax (0868) 23-9874
E-mail t-kyoudo@tsu-haku.jp

〔印刷〕 有限会社 弘文社

入館のご案内

〔開館時間〕 午前9:00～午後5:00
〔休館日〕 毎週月曜日・祝日の翌日
年末年始(12月27日～1月4日)・その他
〔入館料〕 一般…200円(30人以上の団体の場合160円)
高校・大学生…150円(30人以上の団体の場合120円)

中学生以下・障害者手帳を提示された方・
市内在住の65才以上の方は、入館料が無料です。

大 は、津山松平藩の槍印で剣大といい、現在津山市の市章となっています。